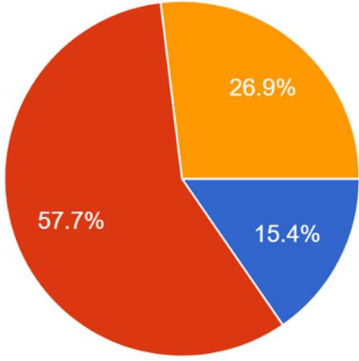
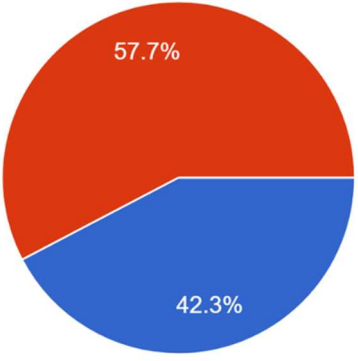
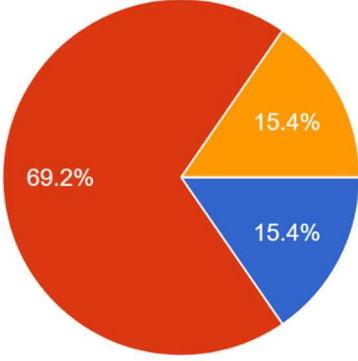


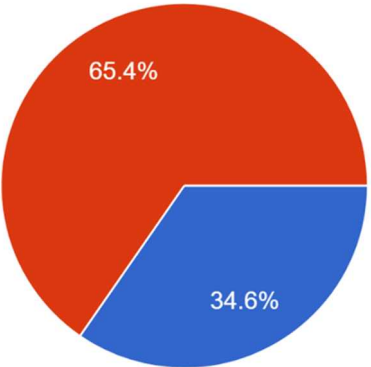
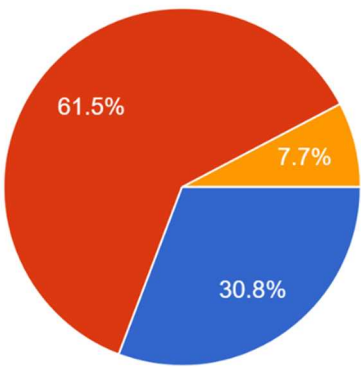
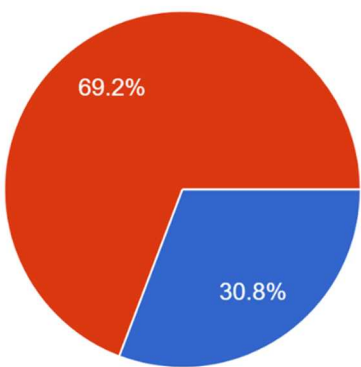
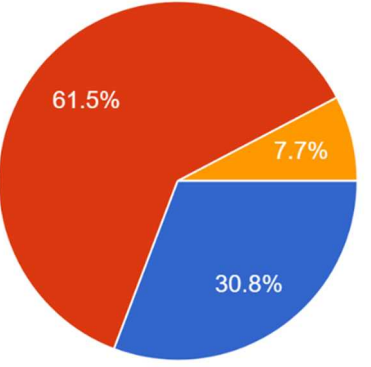
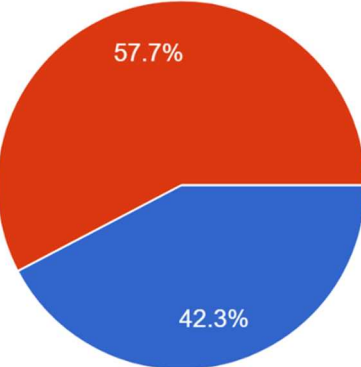
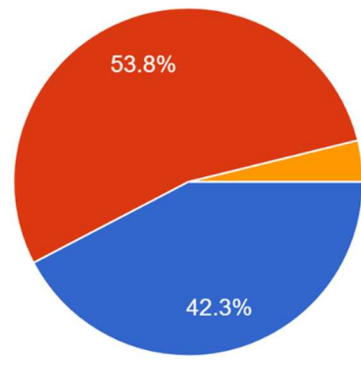
【分析方法】

4件法（A：達成，B：ほぼ達成，C：あまり達成されていない，D：達成されていない）でアンケートを実施した。評価された項目の割合を円グラフで示すとともに，学校経営努力点に関しては，参考としてAから順に4点，3点，2点，1点と得点化し，それぞれ平均値を算出した。保護者アンケートについて前年度から改善された項目などを把握するため，年次比較も合わせて行う。回収率は，職員が100%（26回答/26対象），保護者が96%（54回収/56配付）であった。

I 学校経営努力点(回答数 26, 回収率 100%)

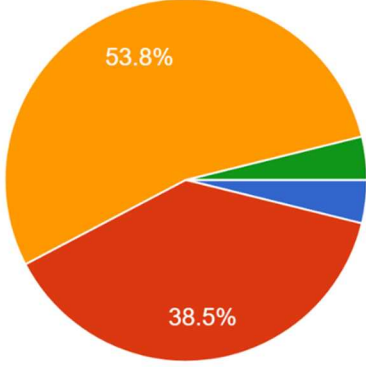
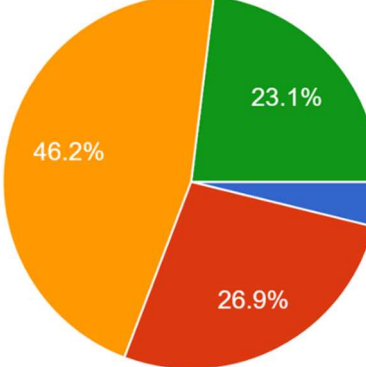
I 評価結果 (数字は平均値)

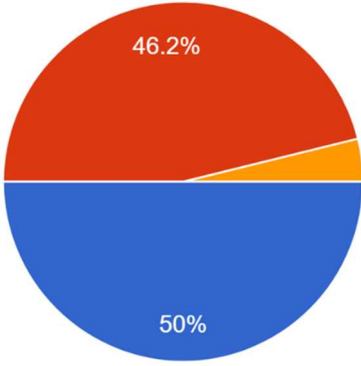
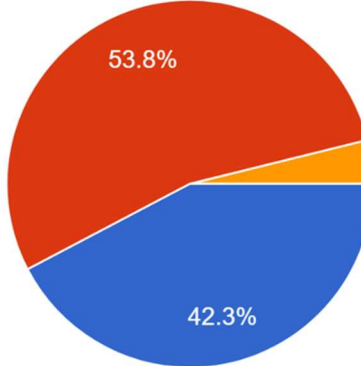
(I)一人一人の教育的ニーズを的確に把握し，適切な指導や必要な支援を充実する。		● A：達成
		● B：ほぼ達成
		● C：あまり達成されていない
		● D：達成されていない(未取組)
ア PDCAサイクルに基づいた個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用の在り方を再確認する。	イ 授業研究の機会確保に努め，児童生徒一人一人の資質・能力の育成の視点による授業改善を行う。	ウ GIGAスクール構想に基づき，特別支援教育における教科指導等の目的や教育効果を踏まえたICT活用に努め，実践事例を蓄積する。
		
今年度：2.9 前年度：2.7	今年度：3.4 前年度：2.8	今年度：3.0 前年度：2.7

(2)児童生徒の健康や校内外の安全を確保し、安全指導や生徒指導、保健指導を充実する。		● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)
ア 児童生徒の生命を守り育む視点に立ち、一人一人の実態に応じた安全指導や生徒指導、保健指導を徹底する。	イ 実用的な視点で定期的に危機管理マニュアルの更新を行い、感染症や事故、災害等に関する報告・連絡・相談・確認システムを徹底し、児童生徒の生命・健康を守るための迅速できめ細かな対応を行う。	ウ ヒヤリハット事案の共有や安全点検に基づいた教育環境の整備を行う。
		
今年度：3.3 前年度：3.2	今年度：3.2 前年度：3.1	今年度：3.3 前年度：3.2
(3)附属学校の役割や機能を生かし大学との共同研究を深め、専門性や資質の向上を図る。		● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)
ア 大学・学部の特別支援教育、教科教育等の教員との共同研究や県教委、市教委及び県内外の特別支援教育関係者と連携した、還元性の高い実践的研究を推進する。	イ 研究テーマに基づいた実践研究により特別支援教育に係る専門性を深めるとともに、協働態勢のもと教員相互に資質向上に努める。	ウ サービスに関する研修等を通して、一人一人がハラスメントやコンプライアンスへの意識を高め、信頼される学校づくりに取り組む。
		
今年度：3.2 前年度：3.0	今年度：3.4 前年度：3.3	今年度：3.4 前年度：3.5

<p>(4)力量のある教員を養成するため、大学・学部と連携して教育実習等の一層の充実を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● A：達成</li> <li>● B：ほぼ達成</li> <li>● C：あまり達成されていない</li> <li>● D：達成されていない(未取組)</li> </ul>	
<p>ア 大学の第4期中期計画と連動しながら教員養成に求められる実習生指導の重点を整理し、授業づくりや児童生徒への指導に関する実践力の養成及び指導教員としての指導力の向上に努める。</p>	<p>イ 介護等体験、高校免許取得者の実習、採用前実習等の企画・運営及び教職大学院の探究課題に基づく実践演習の充実を、全校態勢で進める。</p>		
<p>今年度：3.4 前年度：3.4</p>		<p>今年度：3.6 前年度：3.5</p>	

<p>(5)児童生徒・保護者・地域と共にあり、責任を果たす開かれた学校の創造をめざす。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● A：達成</li> <li>● B：ほぼ達成</li> <li>● C：あまり達成されていない</li> <li>● D：達成されていない(未取組)</li> </ul>	
<p>ア 児童生徒の学習環境の向上と附属学校としての責任を果たすため、施設設備、情報機器、教材・教具等の整備・充実を図る。</p>	<p>イ 学校見学会や体験学習、ホームページ、広報誌などを通じて本校の教育活動の魅力を広く発信するとともに、児童生徒の余暇活動の充実に向けた積極的な支援を行う。</p>		
<p>今年度：3.0 前年度：3.1</p>		<p>今年度：2.8 前年度：3.2</p>	

<p>ウ 児童生徒が主体となって行う、地域貢献活動の可能性について検討し、試行する。</p>	<p>エ 従前の取組について、意義・価値や教育効果を検討し、全職員で業務の削減と改善に積極的かつ迅速に取り組み、働き方改革を推進する。</p>
	
<p>今年度：2.4 前年度：2.5</p>	<p>今年度：2.1 前年度：2.3</p>

<p>(6) 教育相談等の支援体制の充実を図り、センター的機能を果たすための支援を継続する。</p> <p style="text-align: right;"> <span style="color: blue;">●</span> A：達成  <span style="color: red;">●</span> B：ほぼ達成  <span style="color: orange;">●</span> C：あまり達成されていない  <span style="color: green;">●</span> D：達成されていない(未取組) </p>	
<p>ア 幼稚園、保育所、小・中・高等学校在籍の特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒のニーズに応じた支援を行うとともに、就学前教育相談の充実を図る。</p>	<p>イ 学部・附属学校園との連携を促進し、巡回相談や現職教員研修等を通して、附属学校園に在籍する児童生徒の多様な学びに応える特別支援教育の一層の推進を図る。</p>
	
<p>今年度：3.5 前年度：3.5</p>	<p>今年度：3.4 前年度：3.4</p>

## 2 結果と考察（学校経営努力点に関する内容）

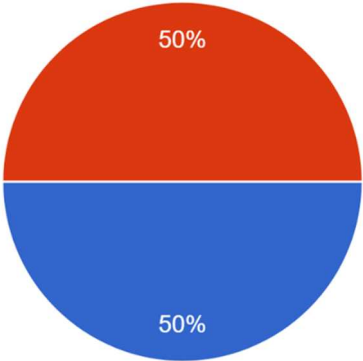
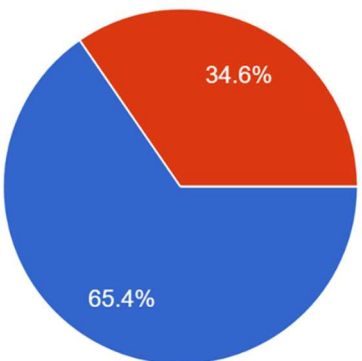
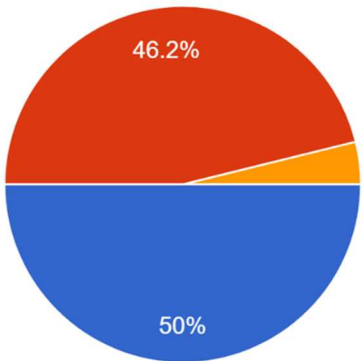
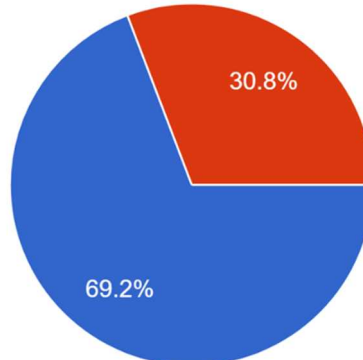
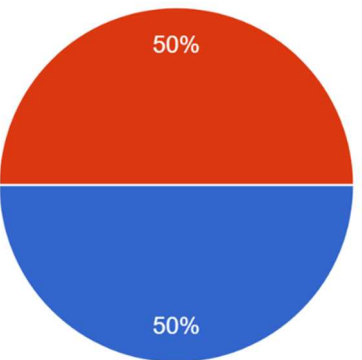
(1) 教育的ニーズの的確な把握と指導及び支援の充実において、**アイウ共に昨年度から評価が上がっている**。自由記述の内容から考察すると、個別の指導計画の書式の変更により、一定の評価を得ている一方で、記入の量が多いことへの負担や授業づくりへの活用が課題と感じている職員も多いことが分かる。活用ができていないと感じているものだからこそ、作成する時間と労力が見合わないと感じるのではないかと考える。個別の指導計画の内容や活用について、カリマネ委員会で検討を続けてきているところであるが、引き続き、運用と活用の両面からの改善を行って

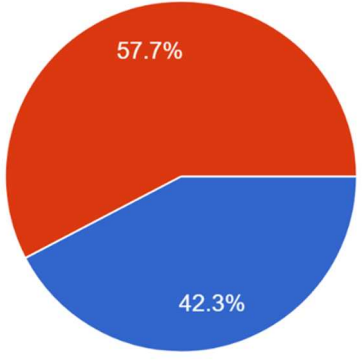
いく必要性が伺える。授業研究の機会確保と授業改善に関しては、全員が達成、ほぼ達成の評価となった。各学部で授業研究会の年間を通した計画を年度当初に示したことが、計画的な授業研究会の実施や授業改善につながったと考える。本校には、授業研究会だけでなく、これまでの学校研究で培ってきた授業ミーティングがあり、働き方改革の視点からも教師が短時間で、個々の課題と感じている授業を改善することができる授業研究の設定を行っていくことも考えていく必要がある。GIGA スクール構想に基づく ICT 活用に関しては、「達成及びほぼ達成」の評価が8割という結果であった。児童生徒一人一台の端末が準備され、職員が使用するタブレット端末も様々な活用がなされてきていることが、今回の結果につながったと考える。引き続き、ICT 活用に関する研修の機会を設定しつつ、実践事例を蓄積・共有していくことが求められる。

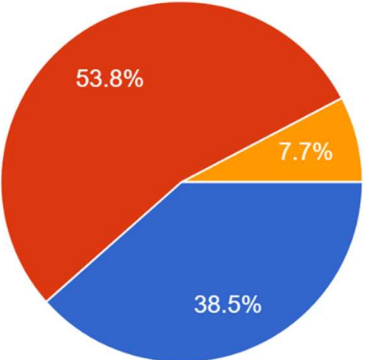
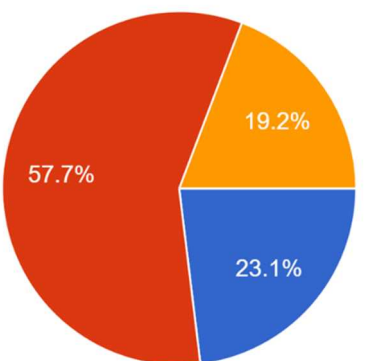
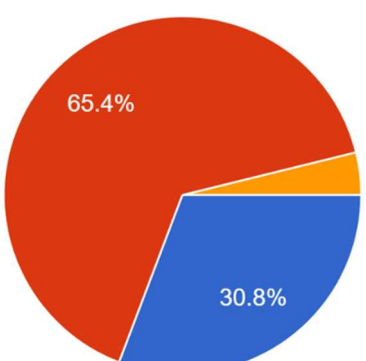
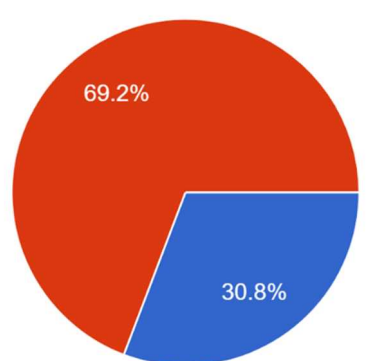
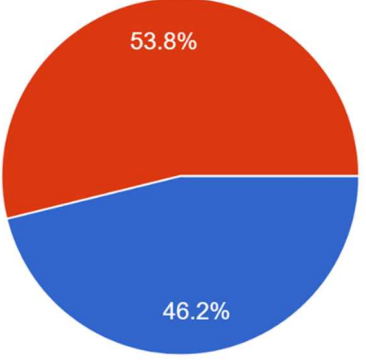
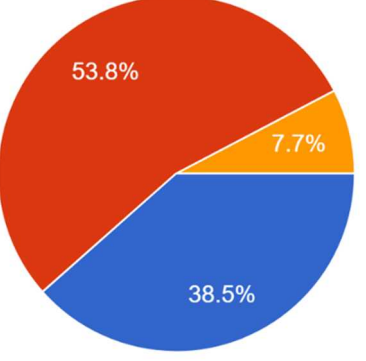
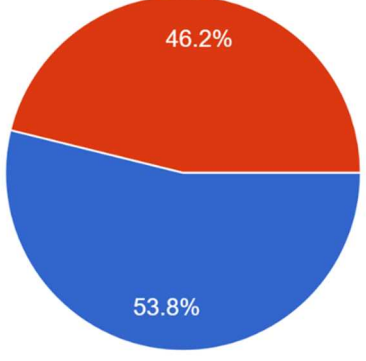
- (2) 児童生徒の安全指導・生活指導・保健指導に関しては、**三つの努力点全て、約90%以上が「達成及びほぼ達成」という高い評価であった。**校舎設備等の老朽化はありつつも、安全点検と事務部の連携により、施設の修繕等が迅速に行われていることが評価につながったと考える。危機管理マニュアルの運用については、危機管理マニュアルの見直しが行われ、一定の改善が評価されている一方、実際に校外学習等で使用する際に、具体的なマニュアル作成が求められるようになり、業務が増えているとの意見もある。児童生徒の命を守る視点から必要なものであるため、業務量の観点から、よく使うマニュアルについて年度初めに学部、学級で確認し、作成するなど、運用面の工夫や改善が求められる。
- (3) 大学との共同研究や実践研究に関しては、**三つの努力点全てにおいて、90%以上で「達成及びほぼ達成」と高い評価であった。**公開研究会に向けて、今年度計6回の校内研究会を実施し、共同研究や指導助言の先生方と連携したことや各学部で実践が行われ、研究のまとめに向けて議論が深まってきていることが評価につながったと考える。
- (4) 教育実習に関しては、**二項目ともに「達成及びほぼ達成」と評価しており、高い評価であった。**本校の使命の一つである教育実習校としての役割を十分果たしていると考え。一方で、自由記述には、課題や改善を求める意見も複数記述されている。今年度実施した、教育実習で何を、どのような取組を通して学んでほしいのかについてのアンケート結果を共有し、具体的な取組を検討していくことも考えていきたい。教員を目指す上で、ますますニーズが増えてくると予測される特別支援学校教員免許の取得希望者に応じた教育実習受入体制や教職大学院実践実習の在り方など、教育学部と連携して取り組んでいく必要がある。
- (5) 開かれた学校という視点では、**全ての項目が昨年度から評価を下げている。**学校見学会や体験学習に関しては、全て実施でき、学校見学会においては、100人を超える参加があるなど、一定の成果が上がっている一方、ホームページ等を活用した本校の魅力の発信が課題となっている。ホームページでの発信だけでなく、学校見学会や体験学習で作成したようなポスターなどでの発信も有効であったため、情報発信のツールとして幅広く考えていく必要があると考える。項目ウの「児童生徒が主体となって行う地域貢献活動の可能性について検討し試行する」ことに関しては、昨年度から引き続き低い評価となった。学校の努力点から、各学部、分掌部で地域貢献活動の可能性を模索してはいると思うが、具体的な取組ができていないと言える。学部や分掌部レベルではなく、学校として地域とつながるための具体的な方針と方策が求められる。**エの働き方改革の推進に関しては、約7割の教員が「あまり達成されていない又は達成されていない」と評価している。**業務の削減に全職員が取り組むとした努力点ではあるが、自由記述において、管理職へのリーダーシップを期待する声が上がっている。その他、会議や行事に関すること、業務改善に向けた方針や具体目標等、様々な意見が書かれていることから、早急に対応していくことが求められている。
- (6) 教育相談等の充実に関しては、**9割以上の教員が「達成及びほぼ達成」と評価している。**支援部を中心にセンター的機能を果たしていることが伺える。自由記述では、巡回相談や就学相談などの回数に関する意見も上がっている。巡回相談等の回数だけで実績とするのではなく、園内での支援体制の確立を目指した相談の在り方などを探っていくことも考えていく必要がある。

II 校務分掌活動(回答数 26, 回収率 100%)

I 評価結果

総務部		
教務・教育課程	教科用図書・公簿	交流教育
		
今年度：3.5 前年度：3.6	今年度：3.7 前年度：3.6	今年度：3.5 前年度：3.3
人権同和教育	情報・視聴覚教育	
		● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)
今年度：3.7 前年度：3.6	今年度：3.5 前年度：3.5	

教育実習部	
教育実習	
	
今年度：3.4 前年度：3.4	

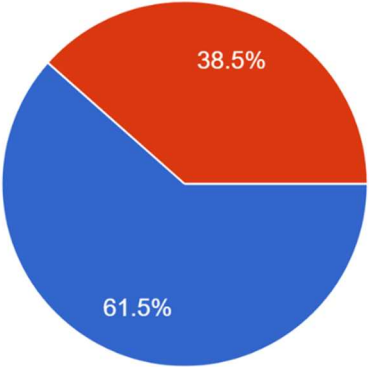
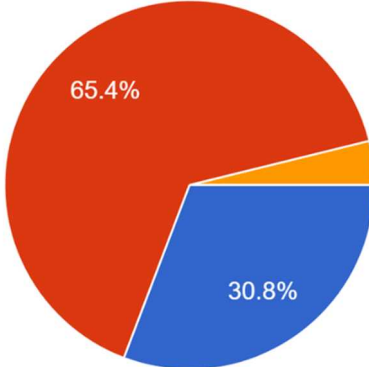
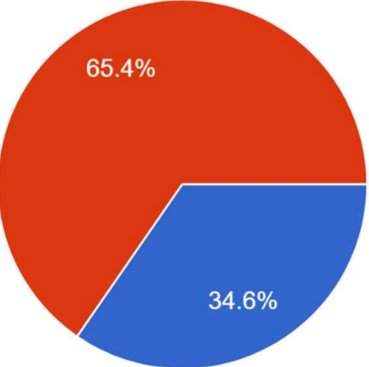
研究部		
研究部		
		
今年度：3.3 前年度：3.3		
支援部		
校内支援①個別の教育支援計画・個別の指導計画	校内支援②関係機関との連携及び校内教育支援委員会	校外支援①附属学校等支援
		
今年度：3.0 前年度：3.0	今年度：3.3 前年度：3.3	今年度：3.3 前年度：3.3
校外支援②早期教育相談事業等	校外支援③小中学校等支援	校外支援④入学者選考委員会・学校見学会
		
今年度：3.5 前年度：3.5	今年度：3.3 前年度：3.5	今年度：3.5 前年度：3.4

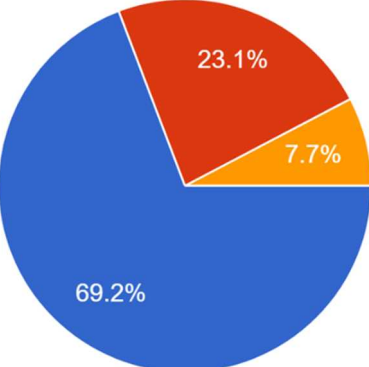
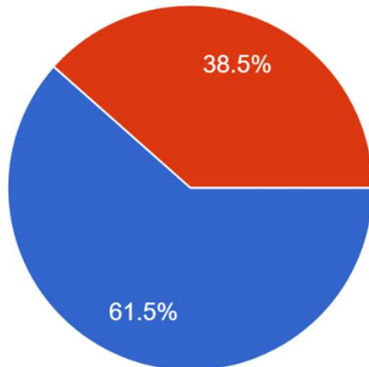
自立活動部	
自立活動	
今年度：3. 3 前年度：3. 3	

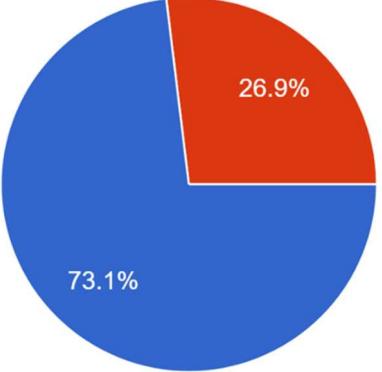
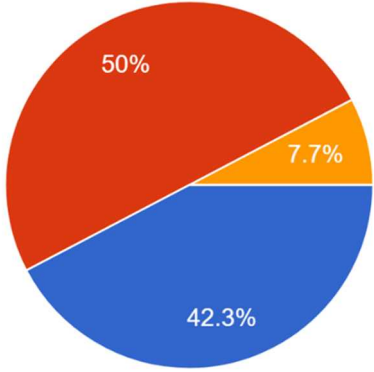
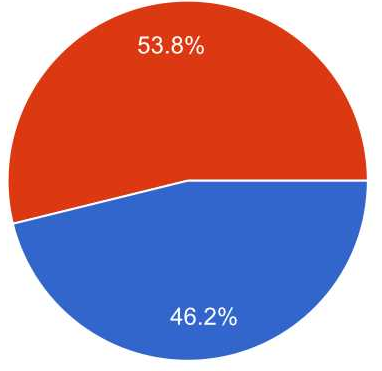
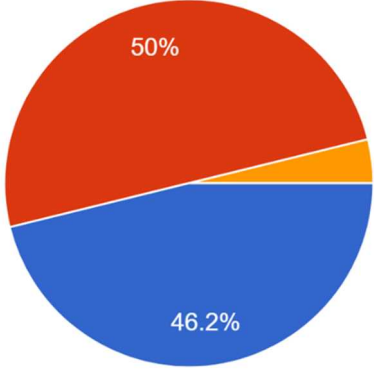
進路指導部	
進路指導	卒業生支援
今年度：3. 5 前年度：3. 5	今年度：3. 5 前年度：3. 3

生徒指導部		
生活・読書指導	学校行事	児童生徒会
今年度：3. 4 前年度：3. 5	今年度：3. 5 前年度：3. 6	今年度：3. 5 前年度：3. 6



保健指導部	
保健・給食指導	安全・環境整備
	
今年度：3. 6 前年度：3. 5	今年度：3. 3
体育指導	
	
今年度：3. 3 前年度：3. 6	

渉外部	
広報・渉外	P T A
	
今年度：3. 6 前年度：3. 5	今年度：3. 6 前年度：3. 6

分掌その他	
<p>厚生部</p> 	<p>一心会・明伸会</p> 
<p>今年度：3. 7 前年度：3. 3</p>	<p>今年度：3. 3 前年度：3. 2</p>
<p>学校評価委員会</p> 	<p>教職大学院</p> 
<p>今年度：3. 5 前年度：3. 5</p>	<p>今年度：3. 4 前年度：3. 6</p>

## 2 結果と考察(校務分掌活動に関する内容)

- (1) **総務部**の四つの分掌いずれも、ほぼ、「達成」、「ほぼ達成」の評価を得ている。自由記述には、教務主任と学級担任の兼務や情報・視聴覚係などの業務量に関する意見が上がっている。本校の経営努力点に関わる係であるため、次年度に向けて考慮することが望まれる。
- (2) **教育実習部**について、「達成」、「ほぼ達成」と高い評価となっている。附属学校の使命である教育実習の充実とその役割を果たしていると言える。特別支援学校の教員免許取得を目指す学生が増えており、実習受入期間が増加しているのが現状である。10日間の実習の中で教職の魅力を感じることができるような実習の在り方を引き続き模索していきたい。
- (3) **研究部**について「達成」、「ほぼ達成」の評価が多い。公開研究会を間近に控えた時期に学校評価を行っているため、公開研究会に向けて実感した成果や準備への不安が自由記述に表れている。不安に関しては、対面での公開研究会を経験したことがない職員が多くを占めていることが背景にあると考える。
- (4) **支援部**は、校内支援①の個別の教育支援計画及び個別の指導計画の運用に関する業務内容に関

しては、「あまり達成されていない」と評価が約2割という結果になった。これは、学校経営努力点(1)ーアと同じ傾向にある。個別の指導計画については、通知表や指導要録に転記、転用ができるような工夫についての意見も上がっており、業務改善を踏まえた検討が求められる。校外支援に関しては、巡回相談に同行できるような研修の計画があったように思う。しかし、現実的に複数の職員が学校を離れることが難しい状況で実施には至らなかった。入学者選考の業務に関しては、学部別の会議となり職員の負担は減ったと思われる。入学者が決定してからの情報共有が十分になされていないため、所属学部以外の入学者について知る機会を設定することが求められる。

- (5) **自立活動部**では、全員が「達成」、「ほぼ達成」と評価している。夏季休業中に実施した片岡先生による職員研修では、新版K式発達検査の結果を通して、子どもの見取り方や授業への生かし方等について具体的な研修が実施できた。本校は、時間における指導を実施しており、自立活動部からの資料提供などを学級の指導に生かすことが評価につながったと考える。
- (6) **進路指導部**については、進路指導と卒業生支援いずれも高い評価を得ている。進路指導については、定期的な情報提供やパンフレット等の掲示、保護者からの質問対応など丁寧な対応が評価されている。卒業生支援については、4年ぶりに同窓会を実施することができたことで、昨年度から評価を上げることに繋がったと考える。卒業生クラブに関しては、様々な意見があることも分かった。業務なのかボランティアなのか、学校としてきちんと整理しておく必要がある。
- (7) **生徒指導部**では、いずれも高い評価を得ている。生徒指導については、制服の変更に向けて、検討委員会が動き出した。時代やニーズに合った制服にしていけるよう、保護者への説明を丁寧に行い、理解を得ながら進めていくことが望まれる。委員会活動に関して、様々な行事等で総務委員会に頼るところがあり、負担が大きくなってきている。担当職員を増やしたり、行事ごとに担当する委員会を割り振ったりするなどの工夫も考えられる。児童生徒会係がリーダーシップを取って、各委員会と連携を図っていくことが望まれる。
- (8) **保健指導部**については、いずれの業務においても高い評価であった。今年度係を合併した安全・環境整備について、成果や課題を確認しておく必要がある。環境整備の面では、事務係長の日々の清掃や環境整備によって保つことができているが、頼りっぱなしではいけないと感じている職員も多い。学校の環境整備として、職員全員のこととして取り組んでいくことが求められる。
- (9) **渉外部・分掌その他**では、それぞれの係において、高い評価を得ている。渉外部については、かごしま国体・かごしま大会の出演により評価が上がっている。一心会・明伸会に関しては、各学校の負担や会費の取扱い、名簿に記載する情報、懇親会等への参加など、会員に対して説明できるものにしていくことが求められる。

Ⅲ その他

Ⅰ 評価結果(回答数 26, 回収率 100%)

	平均値	質問項目	結果 1 思う 2 まあまあ思う 3 余り思わない 4 思わない															
Ⅰ 学校全体	3.6 (3.8)	ア 職員会議は計画的に実施され、適切な審議がなされている。	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>2</td><td>10</td><td>38.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	16	61.5%	2	10	38.5%	3	0	0%	4	0	0%
	Response	Count	Percentage															
	1	16	61.5%															
	2	10	38.5%															
	3	0	0%															
	4	0	0%															
	3.7 (3.9)	イ 運営委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(運営対象者のみ)	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>12</td><td>70.6%</td></tr> <tr><td>2</td><td>5</td><td>29.4%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	12	70.6%	2	5	29.4%	3	0	0%	4	0	0%
	Response	Count	Percentage															
1	12	70.6%																
2	5	29.4%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.5 (3.7)	ウ カリ・マネ委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(対象者のみ)	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>2</td><td>4</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>7.7%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	8	61.5%	2	4	30.8%	3	1	7.7%	4	0	0%	
Response	Count	Percentage																
1	8	61.5%																
2	4	30.8%																
3	1	7.7%																
4	0	0%																
3.5 (3.5)	エ 自分にとって公務上必要な情報が適切に伝達されている。	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>42.3%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	14	53.8%	2	11	42.3%	3	1	3.8%	4	0	0%	
Response	Count	Percentage																
1	14	53.8%																
2	11	42.3%																
3	1	3.8%																
4	0	0%																
3.0 (3.4)	オ 学校行事(年間, 月)は、適切に組まれている。	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>5</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	6	23.1%	2	14	53.8%	3	5	19.2%	4	1	3.8%	
Response	Count	Percentage																
1	6	23.1%																
2	14	53.8%																
3	5	19.2%																
4	1	3.8%																
2.8 (3.0)	カ 学校の教育目標や重点目標について、具体的に説明できる。	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>18</td><td>69.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>26.9%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	1	3.8%	2	18	69.2%	3	7	26.9%	4	0	0%	
Response	Count	Percentage																
1	1	3.8%																
2	18	69.2%																
3	7	26.9%																
4	0	0%																
3.5 (3.6)	キ 学校の年間指導計画を活用して、指導や支援の充実を図っている。	<table border="1"> <tr><th>Response</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>13</td><td>50%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>46.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Response	Count	Percentage	1	13	50%	2	12	46.2%	3	1	3.8%	4	0	0%	
Response	Count	Percentage																
1	13	50%																
2	12	46.2%																
3	1	3.8%																
4	0	0%																

	3.4 (3.5)	ク 学校の教育課程全体で、組織的に児童生徒を育てていくように意識している。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>11</td><td>42.3%</td></tr> <tr><td>2</td><td>15</td><td>57.7%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	11	42.3%	2	15	57.7%	3	0	0%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage															
1	11	42.3%																
2	15	57.7%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.0 (3.2)	ケ 目指す教育活動のために、学校全体で実施される会議等において積極的に発言するようにしている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>7</td><td>26.9%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>50%</td></tr> <tr><td>3</td><td>6</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	7	26.9%	2	13	50%	3	6	23.1%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	7	26.9%																
2	13	50%																
3	6	23.1%																
4	0	0%																
2 学部・学級	3.6 (3.7)	ア 学部会は計画的に実施され、学部の運営は、工夫・改善されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>2</td><td>10</td><td>38.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	16	61.5%	2	10	38.5%	3	0	0%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage															
	1	16	61.5%															
	2	10	38.5%															
	3	0	0%															
	4	0	0%															
	3.2 (3.2)	イ 学部内の仕事が公平（能力的・経験的）に分担されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>5</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>20</td><td>76.9%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	5	19.2%	2	20	76.9%	3	1	3.8%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage																
1	5	19.2%																
2	20	76.9%																
3	1	3.8%																
4	0	0%																
3.5 (3.7)	ウ 学級のペア間で情報の連携が適切に行えている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>13</td><td>50%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>50%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	13	50%	2	13	50%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	13	50%																
2	13	50%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.4 (3.6)	エ 学級事務等は公平（能力的・経験的）に分担されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>11</td><td>42.3%</td></tr> <tr><td>2</td><td>15</td><td>57.7%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	11	42.3%	2	15	57.7%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	11	42.3%																
2	15	57.7%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.3 (3.7)	オ 学級経営に係る仕事は工夫されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>7</td><td>26.9%</td></tr> <tr><td>2</td><td>19</td><td>73.1%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	7	26.9%	2	19	73.1%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	7	26.9%																
2	19	73.1%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.7 (3.8)	カ 同僚と共に、児童生徒の成長を伝え合い、喜びを共有している。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>18</td><td>69.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>8</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	18	69.2%	2	8	30.8%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	18	69.2%																
2	8	30.8%																
3	0	0%																
4	0	0%																

3 授業	3.3 (3.0)	ア 授業研究等(授業研究会・授業ミーティング)は効果的に活用されている。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>9</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>2</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	9	34.6%	2	16	61.5%	3	1	3.8%	4	0	0%
	Category	Count	Percentage															
	1	9	34.6%															
2	16	61.5%																
3	1	3.8%																
4	0	0%																
3.3	イ 学校研究や教育実習で行っている授業づくりに関する取組は、学校努力点に対し効果的に働いている。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>18</td><td>69.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	8	30.8%	2	18	69.2%	3	0	0%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	8	30.8%																
2	18	69.2%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.5 (3.3)	ウ 主体的に学習に取り組む態度など、観点別の評価や授業づくりに取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>12</td><td>46.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	12	46.2%	2	14	53.8%	3	0	0%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	12	46.2%																
2	14	53.8%																
3	0	0%																
4	0	0%																
4 個人	2.9 (2.8)	ア 個人で自分なりにテーマを持ち研究を進めている。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>5</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>4</td><td>2</td><td>7.7%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	5	19.2%	2	16	61.5%	3	3	11.5%	4	2	7.7%
	Category	Count	Percentage															
	1	5	19.2%															
	2	16	61.5%															
3	3	11.5%																
4	2	7.7%																
2.6 (2.9)	イ 担当している部や係などの仕事は負担なく取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>42.3%</td></tr> <tr><td>3</td><td>10</td><td>38.5%</td></tr> <tr><td>4</td><td>2</td><td>7.7%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	3	11.5%	2	11	42.3%	3	10	38.5%	4	2	7.7%	
Category	Count	Percentage																
1	3	11.5%																
2	11	42.3%																
3	10	38.5%																
4	2	7.7%																
3.3 (3.2)	ウ 学習指導要領改訂など、教育施策の動向に感心をよせ、学ぶようにしている。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>10</td><td>38.5%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>50%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	10	38.5%	2	13	50%	3	3	11.5%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	10	38.5%																
2	13	50%																
3	3	11.5%																
4	0	0%																
3.1 (2.9)	エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している。	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Count	Percentage	1	6	23.1%	2	16	61.5%	3	4	15.4%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	6	23.1%																
2	16	61.5%																
3	4	15.4%																
4	0	0%																

## 2 結果と考察（学校全体，学部，個人に関する内容）

### (1) 学校全体

9項目中6項目において、8割以上の職員が「思う」、「まあまあ思う」と評価している。項目オに関しては、年間の月計画等に大きな変更があったわけではなく、行事等に伴う業務が重なる

ことや連続して計画されている状況に対する評価と考える。項目力に関しては、質問に「具体的に」という文言があり、回答する職員のハードルを上げているのではないかと考える。教育目標や重点目標に関して、管理職から振り返りや周知を行う機会を設定するような工夫が求められる。項目ケに関しては、「あまり思わない」との回答があった。質問に「学校全体で実施される」という文言があるため、職員会議や全体研究会の場が想定される。会の工夫として、近くの人と話す時間を設定するなど工夫がなされているところで、そういった時間での発言は多くの職員が発言していると思われるが、学校全体としては発言する人が固定化してきていると感じている職員がいることが分かった。

## (2) 学部・学級

6項目全ての項目において、90%以上が「思う」、「まあまあ思う」と評価している。自由記述からも、職員の頑張りを称える意見や学部での話し合い等での語り合いができてきている意見がある一方、業務に関して、専門的な教科等の人員の充実や確保を希望する声もある。学校経営努力点の働き方改革にも関わってくるが、業務改善について学校としての具体的な目標や方針を示していくことが求められる。

## (3) 授業

アの授業研究等の活用に関して、昨年度から評価が上がった。昨年度までは、授業ミーティングの活用に限定した質問であったが、これまでの学校研究で作りに上げてきた授業研究の様々なスタイルを評価の対象としたことに加え、授業研究会の年間実施計画を年度初めに各学部で作成したことで、計画的に実施することができていることで評価が上がったと考える。またイの学校研究で行っている内容や実践、教育実習で指導する授業づくりに関する内容が学校経営努力点と連動しながら取り組んでいる結果と考える。

## (4) 個人

イの仕事への負担に関して、約半数の職員が負担を感じているという結果となった。附属学校ということで、授業だけでなく、研究や教育実習など業務量が多いのが現状。今年度は、教育実習の期間が長くなったことに加え、実習生の数が増え、実習を二期に分けて実施するなど、時間的、量的に負担が増えていたことが要因と考えられる。また、公開研究会を控えており、業務が短い期間に偏ることが多いことも理由と考える。学校経営努力点にある働き方改革や行事等の年間計画と関連させ、業務量の削減や効果的な分担、業務量が増える時期の分散化について、大学を含め、校長のリーダーシップの下、学校全体での具体的な取組が求められる。

#### IV 保護者アンケート

##### I 評価結果(回答数 54, 回収率 96%)

※4件法(A:達成, B:ほぼ達成, C:あまり達成されていない, D:達成されていない)でアンケートを実施した。Aから順に4点, 3点, 2点, 1点と得点化し, それぞれ平均値を算出した。

	質問項目	全体平均		
		R 3	R 4	R 5
教育活動	① 学校・学部・学級の教育方針や教育目標に添った取組がなされている。	3.7	3.6	3.6→
	② 子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。	3.6	3.6	3.6→
	③ 子どもたちの実態に応じた特色ある学校・学部行事が行われている。	3.8	3.7	3.6↘
	④ 連絡帳や学級通信等は, 学校や授業での取組をよく伝えてある。	3.8	3.7	3.7→
	⑤ 通知表「あゆみ」は見やすく, 子どもの成長や課題をよく伝えてある。	3.7	3.8	3.8→
	⑥ 個別の教育支援計画による教育方針は, 分かりやすい。	3.7	3.7	3.7→
教育環境	⑦ 学校は, 子どもをよく理解し, 真剣に対応している。	3.8	3.7	3.7→
	⑧ 学校は, 保護者の悩みや相談に親身に対応している。	3.8	3.6	3.6→
	⑨ 充実した教育活動を行う施設や設備が整っている。	3.3	3.1	3.1→
	⑩ 校舎や教室などの清掃や片付けが行き届いている。	3.5	3.3	3.2↘
	⑪ 危険箇所などへの安全配慮がなされている。	3.5	3.4	3.3↘
連携	⑫ 学校と家庭は, 子どもの目標に協力して取り組んでいる。	3.6	3.6	3.6→
	⑬ 学校と家庭は, 日常的に連絡を取り合っている。	3.8	3.7	3.7→
	⑭ 学校は, 保護者の研修やPTA活動に対しての協力・協働をしている。	3.7	3.7	3.6↘
	⑮ 学校は, 関係機関と連携を図り, 必要な情報を保護者と共有している。	3.5	3.5	3.6↗
その他	⑯ PTA活動は, PTA会員の意思を反映し, 計画的に行われている。	3.7	3.5	3.4↘
	⑰ 子どもは, 毎日楽しく登校している。	3.8	3.8	3.9↗
	⑱ 子どもの成長を感じている。	3.9	3.8	3.8→



## 2 結果と考察(保護者アンケートに関する内容)

- (1) 教育活動においては、全ての項目において、平均値 3.6~3.8 の高い評価を得ている。昨年度の評価との比較でも大きな変化は見られなかった。保護者との懇親の機会が増えてきて、子どもの成長や学習の様子、教師の思いや考えを直接話す機会が増えてきたことで、学校の教育活動に対して一定の評価を得ていると考える。
- (2) 教育環境においては、校舎の老朽化を感じている意見は増えている。施設に関連する3項目全て低い評価となった。⑨に関しては、次年度から始まる校舎改修に伴って、評価が変わってくることが予想される。保護者への情報共有を丁寧に行いながら、改築に伴う教育活動等の変更に対して理解を得ていくことが求められる。⑩や⑪については、なかまの家の定期的な清掃を保護者にお願いしていることへの御意見があった。職員が行っている日々の清掃や職員作業など、保護者の知らないところで行っている環境整備について説明することや、保護者の清掃の回数等を再検討していくことが大事なのではないかと考える。
- (3) 連携においては、4項目全て平均値 3.5 以上の評価となった。学校と家庭との連携は、少しずつコロナ渦前の状況に戻りつつあるのではないかと考える。PTA 活動に対しての協力・協働に関しては、学校として積極的に参加し、学校と連携を図りながら行っているところである。時代の変化に伴い、社会的に見直しが求められている PTA 活動の内容等に対する考え方が影響しているのではないかと考える。
- (4) その他においては、PTA 活動に関する意見が多く挙がっていた。PTA 執行部を始め、各専門部が行ってきた行事や取組について感謝を伝える意見がある一方で、コロナ渦を経て、PTA 活動の意味や保護者の負担など、時代に合った形へと変わっていくことを望む意見も増えてきている。次年度から、校舎改修に係る教室移動などで PTA 活動にも大きな制約が掛かっていくことが予想されている。学校と PTA が更に連携を図りながら、PTA 活動のスリム化に向け、本当に必要な行事や話し合いを整理していくことにつながることを期待する。